

施策・主な取組シート

基本方向	(4) まちのにぎわい・活力づくり	基本政策	2) 産業の振興
(1) 施策			
名称	2 2 水産業の振興		
目標	水産物の安定した生産・供給体制を整え、漁業の担い手の育成・確保や漁場環境の保全を図り、本市の伝統的な産業である水産業の活力再生をめざします。		
現状と課題	<p>近年、東京湾漁業を取り巻く環境は大変厳しい状況にあり、アサリについては、平成19年度に確認されたカイヤドリウミグモや冬季波浪などの影響、ツメタガイ・クロダイ・エイ等による食害により、アサリの生産量は大きく減少しています。</p> <p>また、ノリについては、貧栄養化に伴う色落ちによるノリ単価の下落や、気候変動による海水の高水温化等の影響により、ノリ養殖活動に携われる期間が短くなってきています。</p> <p>これらのことから、アサリ・ノリの生産量は減少傾向にあり、漁業者の所得は減少しており、増産・収益向上につながる生産体制の構築と、水産業を支える担い手の確保が大きな課題となっています。</p> <p>水産物の安定供給を担う生産拠点である牛込漁港・金田漁港は、計画的に漁港施設の整備を実施してきましたが、漁港施設の老朽化とともに、更新を必要とする漁港施設が増加しており、漁港施設の長寿命化等の機能保全対策が課題となっています。</p> <p>潮干狩りについては、入場者数が最盛期より減少しています。</p>		
課題解決の方向性	<p>水産業の活力を取り戻すため、浅海養殖栽培漁業や新たな増養殖に対する支援等により、漁業就業を促進するとともに、所得向上に向けた収益性の高い漁業経営体への転換を促し、魅力ある水産業を展開します。</p> <p>また、漁港施設の機能維持・長寿命化に取り組みます。</p> <p>さらに、水産物のブランド化に向けた取り組みを行うとともに、本市最大の観光資源である潮干狩りの周辺環境施設の整備や観光客の誘致活動とPRに努め、観光漁業の推進に取り組みます。</p>		
(2) 主な取組			
No.1	名称	漁業振興の推進	
	担当課	農林水産課	
	概要	<ul style="list-style-type: none"> ・東京湾漁業の特性を生かしたアサリやノリ等の浅海養殖栽培漁業に対する助成を行うとともに、漁場の特性を生かした活力ある生産体制を構築するため、漁業協同組合が実施する漁場環境の改善、資源の育成、生産性の向上等の事業や、カキ・アサリ等の新たな増養殖に対して、県と連携し、助成します。 ・市内漁業協同組合の漁業者等の活動グループが行う、干潟漁場の環境と生態系を保全する活動に対して、国・県と連携し、助成します。 ・「千葉ブランド水産物」の認定による、地域の特性を生かしたブランド化を推進し、認知度を向上させるとともに、漁業協同組合・県と連携し販売促進を図ります。 ・水産業の担い手確保に向け、就業希望者への情報提供などの支援を行います。 ・漁業者の減少に伴う、漁港の未利用施設の有効活用に向けた検討を行います。 	
No.2	名称	漁業生産基盤の整備	
	担当課	農林水産課	
	概要	<ul style="list-style-type: none"> ・水産業の健全な発展及びこれらの水産物の安定供給を図るため、総合的かつ計画的に漁港施設の整備を実施してきましたが、近年、漁港施設の老朽化とともに、更新を必要とする施設が増加してきていることから、漁港施設の管理を体系的に捉えるために策定した「機能保全計画」に基づき、漁港施設の長寿命化を図りつつ、更新コストの平準化・縮減を図ります。 	

No.3	名称	観光漁業の推進		
	担当課	観光振興課、農林水産課		
	概要	<ul style="list-style-type: none"> ・潮干狩り入場者の増加に向け、パンフレットやポスター等による観光宣伝に加え、「海ほたるパーキングエリア」や「三井アウトレットパーク木更津」等の市外からの来場者が多い施設での効果的なPR活動を実施します。 ・潮干狩り場周辺の環境施設等を整備するとともに、来場者の市内回遊性が図られるよう、潮干狩り場からの情報発信を推進します。 		
施策目標の実現に関する指標	指標	現状値(H30)	目標値(H34)	設定の考え方
	アサリの年間生産量	41t (平成29年度)	200 t	漁業協同組合の事業計画書によるアサリの生産量(計画)を目標値として設定した。
	潮干狩り入場者数	21.7万人 (平成30年7月31日)	25万人	潮干狩りの入場者数の減少傾向を回復に転じさせるため、H30年度の入場者数を基に目標値を設定した。